

令和3年度

子ども会だより

らいちょう

60号



大北地方子ども会育成連絡協議会

目 次

会長あいさつ	1
役員名簿	2
今年度実施・参加した主な事業	3
令和3年度 第23回 大北地方子ども会育成フォーラム	4
(1) 子どもフォーラム概要	4
(2) 「少年の主張 長野県大会」優良賞受賞作文	5
(3) 対談「リトルリーグ全国大会ベスト8の快拳」	6
各市町村の特色ある取組・事業（市町村事業報告）	12
大町市	12
池田町	13
松川村	14
白馬村	15
小谷村	16
全国子ども会安全共済会に加入しましょう	17
大北地方子ども会育成連絡協議会規約	18

～表紙の写真～

【大町市子ども会育成連絡協議会主催ジュニアリーダー研修会】

コロナ禍でいろいろなイベントが中止や縮小される中、感染拡大防止対策に配慮して、いくつかのジュニアリーダー研修会を実施してきました。写真は第2回キャンプ事前研修、第3回木崎湖キャンプ研修、第4回ボランティア研修（環境整備）、第5回北アルプス芸術祭作品鑑賞研修の様子です。「気づいて行動 仲間感謝 みんなに夢を！」をテーマに活動内容を工夫して行い、参加者一同貴重な体験を積み、楽しい思い出をつくることができました。

会長あいさつ

大北地方子ども会育成連絡協議会 会長 田中春輝

昨年度より感染拡大がはじまった新型コロナウイルス感染症ですが、ワクチンの接種が進み、数回の感染のピークを越えたことにより落ち着きを見せていたところでしたが、新型コロナ「オミクロン株」の出現により長野県内はまん延防止等重点措置が適用される状況になってしまいました。そのような状況の中、感染拡大防止をはじめとした子どもたちの安全に配慮をしつつ、地域の子どもの健やかな育成にご尽力いただきました皆様に深く御礼申し上げます。



さて、本会では「大北地方の市町村子ども会育成会の連絡連携を図り、もって青少年育成活動の発展に寄与すること」を目的として、「大北地方子ども会育成フォーラム」の開催などの活動を行ってきました。昨年度のフォーラムについては中止となってしまいましたが、本年度はインターネットを使ったオンラインでの開催を試みました。目まぐるしく変わる状況に対し様々な工夫を講じてこれからも活動を行っていきますが、子ども会育成フォーラムは大北地域の皆さんが集まり学びあう場として開催できることを切に願うものです。

終わりに、この困難の中これまで関係された皆様のご協力に感謝を申し上げますとともに、新型コロナウイルス感染症禍が早期に終息し、子どもの笑顔があふれる子ども会の活動の復活を祈念し、本誌「らいちょう」60号発刊の挨拶とさせていただきます。

令和3年度 大北地方子ども会育成連絡協議会役員



前列左から 相澤副会長（小谷村）田中会長（池田町）倉科監事（松川村）海川顧問（大町市）
後列左から 石野監事（白馬村）百瀬副会長（大町市）松澤顧問（小谷村）

役員名簿

◆大北地方子ども会育成連絡協議会役員

役職名	氏名	出身団体役職名
会長	田中春輝	池田町子ども会育成会連絡協議会会長
副会長	百瀬泰慶	大町市子ども会育成連絡協議会会長
〃	相澤元宏	小谷村青少年育成会会長
監事	倉科次雄	松川村子ども会育成会連絡協議会会長
〃	石野真	白馬村子ども会育成会連絡協議会会長
顧問	松澤義和	元大北地方子ども会育成連絡協議会会長
〃	海川明文	前大北地方子ども会育成連絡協議会会長

◆市町村子ども会育成連絡協議会等役員

市町村	役職名	氏名	市町村	役職名	氏名
大町市	会長	百瀬泰慶	白馬村	会長	石野真
	副会長	茅野浩子		副会長	山根かほる
	〃	遠藤浩樹		〃	稲垣まゆき
	〃	栗林守		事務局	横川秀明
	〃	香山由人		〃	渡邊宏太
	〃	北沢孝一		〃	小島麻衣子
	事務局	伊藤浩光		小谷村	会長
池田町	会長	田中春輝	副会長		片山真
	副会長	瀧澤友美	〃		洞地賢
	事務局	薄井誠一	〃		矢口さつき
松川村	会長	倉科次雄	〃		吉田公美
	副会長	西山富雄	事務局		渋谷洋充
	〃	小林雅久	〃		萩原慶一郎
	〃	内山孝生			
	事務局(前)	村山真一			
	事務局(後)	羽田幹郎			

今年度実施・参加した主な事業

【令和3年】

- 4月13日(火) … 大北地方子ども会育成連絡協議会役員会通知発送（メールにて）
- 5月12日(水) … 長野県子ども会育成連合会 第1回理事会（長野市ホクト文化ホール）
- 5月13日(木) … 大北地方子ども会育成連絡協議会会計監査（大町市役所）
- 5月13日(木) … 大北地方子ども会育成連絡協議会役員総会（大町市役所）各地区会長・事務局参加
- 5月29日(土) … 県子連通常総会・県子連表彰（JA長野県ビル）10時～12時
長野県子ども会育成研究協議会 ⇒ 中止
- 6月5日(土) … 安全啓発指導者養成講習会（初級）（伊那市防災コミュニティセンター）⇒ 中止
- 6月12日(土) … 令和3年度 第1回長野県子ども会指導者講習会 ⇒ 中止
- 6月19日(土) … 長野県子ども会第1回ジュニア・リーダーセミナー ⇒ 中止
- 7月12日(月) … 「長野県将来世代応援県民会議 北アルプス地域会議」
「北アルプス地域子ども応援プラットフォーム」合同会議 ⇒ Web会議
- 8月11日(水) … 大北地方子ども会育成連絡協議会第1回役員会（大町市役所）
- 9月1日(水) … 長野県子ども会育成連合会 第2回理事会（長野市ホクト文化ホール）⇒ 中止
- 9月3日(金) … 大北地方子ども会育成連絡協議会第2回役員会（Zoomミーティング）
- 9月11日(土) … 長野県子ども会第2回ジュニア・リーダーセミナー ⇒ 中止
- 9月30日(木) … 大北地方子ども会育成連絡協議会第3回役員会（Zoomミーティング）
- 10月18日(月) … 大北地方子ども会育成連絡協議会第4回役員会（大町市役所）
- 11月4日(木) … 北アルプス広域連合長宛
令和4年度市町村への負担金及び補助金等の予算要求提出
- 11月10日(水) … 大北地方子ども会育成連絡協議会第5回役員会（大町市役所）
- 11月15日(月) … 大北地方子ども会育成フォーラム「対談会」録画撮影（大町市役所）
- 11月27日(土) … 第23回大北地方子ども会育成フォーラム（オンライン開催：メイン会場大町市役所）
- 11月28日(日) … 令和3年度 第2回長野県子ども会指導者講習会（諏訪市文化センター）
- 12月3日(金) … 大北地方子ども会育成フォーラム「対談会」録画DVD送付
- 12月4日(土) … 安全啓発指導者養成講習会（初級）（松本市大手公民館）

【令和4年】

- 1月21日(金) … 長野県子ども会育成連合会 第2回理事会（臨時）（長野上水内教育会館）
- 1月26日(水) … 大北地方子ども会育成連絡協議会第6回役員会について事務連絡（メール）
- 2月 … 長野県将来世代応援県民会議 第2回北アルプス地域会議 ⇒ 中止
- 3月14日(月) … 長野県子ども会育成連合会 第3回理事会（長野上水内教育会館）
- 3月24日(木) … 大北地方子ども会育成連絡協議会第6回役員会（大町市役所）
- 3月下旬 … 機関誌「らいちょう60号CD版」発行

※「中止」「Web会議」「Zoomミーティング」等は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による

令和3年度 第23回大北地方子ども会育成フォーラム

「大北地方子ども会育成フォーラム」は、各市町村の子ども会の活動発表を通して、望ましい子ども会活動のあり方を学び合いながら今後の充実を図る催しで、今年で23回目を数えます。

新型コロナウイルス感染症のため、昨年度は中止となった本フォーラムですが、大北地方子ども会の絆を大事にしたいと考え、今年はオンラインでの開催を試みることになりました。メイン会場を大町市として、Zoom配信にて大北地方市町村の各会場を繋ぎ、初めて実施しました。

日 時：令和3年11月27日（土）13：30～15：00

会 場：大町市（大町市役所西会議室：定員30名）
池田町（池田町交流センターかえで：定員15名）
松川村（すずの音ホール研修室：定員20名）
小谷村（小谷村役場視聴覚室：定員20名）
白馬村（白馬村保健福祉ふれあいセンター2階学習室：定員20名）



内 容

1 子どもフォーラム

- 発表者：各市町村子ども会代表の皆さん
- 司 会：大北地方子ども会育成連絡協議会 副会長 相澤 元宏
- 発表内容テーマ
 - ・大町市子ども会育成連絡協議会… 『北アルプス国際芸術祭鑑賞研修とボランティア活動』
 - ・池田町子ども会育成会…………… 『ふるチャレ畑』
 - ・松川村子ども会育成会…………… 『親子でチャレンジ ラフティング体験会』
 - ・白馬村子ども会育成会…………… 『夏の行事 高瀬溪谷ダムツアー』
 - ・小谷村青少年育成会…………… 『村内巡りツアー』

2 「少年の主張 長野県大会」優良賞受賞作文発表

テーマ「山村留学で学んだこと」
発表者：大町市立八坂中学校2年 殿岡 悠さん

3 対談「リトルリーグ全国大会ベスト8の快挙」

- 出演者 大町白馬リトルリーグ
 - 監督 竹田 定治郎 さん
 - 主将 宮田 蒼一朗くん
 - 選手 太田 迅くん
- 司会者 大北地方子ども会育成連絡協議会 顧問 海川 明文



「少年の主張 長野県大会」優良賞受賞作文

少年の主張長野県大会は昭和54年の「国際児童年」を契機に「子どもの主張大会」として始まりました。この大会は「心身ともに大きく成長する時期にある中学生が、日頃の生活を通じて考えていること、実践していることを意見や提言にまとめて発表することにより、青少年の自主性や社会性を涵養する」ことを趣旨として開催され、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、動画審査で行われました。大北地域の代表として大町市立八坂中学校2年 殿岡 悠くんが推薦され、令和3年9月17日（金）に行われた審査にて、優良賞をいただきましたので、その作品を紹介いたします。

「山村留学で学んだこと」

大町市立八坂中学校2年 殿岡 悠

僕は小学5年生の時から山村留学を続けています。山村留学とは、1年間、親元を離れた子どもたちが家族と一緒に生活しながら、自然体験などをする場所です。みなさんは山村留学をするのと、進学校に進学するのと、どちらを選びますか。

僕は山村留学をしてきて、山村留学で学べることは他にないほど素晴らしいものだと思うことがたくさんありました。例えば、田んぼや畑などで農業体験をしたり、自然の中でたくさんの友達と遊んだりすることはとても楽しいです。もちろん、それ以上に辛いことや大変なことなども多くありました。農作業は面倒だと思ったり、理不尽なことに腹を立てたり。嫌なことを言われて悲しんだり。何度も自分の家に帰りたいと思いました。でも、僕は山村留学を継続しました。それには、しっかりとした理由があります。生活している中で僕にはある言葉が頭に浮かんだのです。それは、父に教えてもらった「意味、価値、感謝」という言葉です。どんなこと、ものにも意味、価値があり、感謝するといいい、という意味です。山村留学に来てその言葉を、身をもって実感しました。



山村留学は集団生活です。そのため、人間関係が悪くなったり、いじめがあったりします。僕もいじめられていた時がありました。その時はすごく嫌だったけれど、やられた側の気持ちを知ることでもできていい経験になったと、今では思います。そして、どんなに嫌なことであっても、意味、価値があることを実感しました。いじめた人といじめられた人では、いじめられた人の方が将来幸せになることが多いと聞いたことがあるけれど、それは、いじめられた人は人の気持ちをわかるようになれるからだと思います。

また、これ以外にもいい経験ができる環境がありました。それは、たくさん挑戦し、たくさん失敗できる環境です。僕は、成功するには失敗することが一番大切だと知りました。僕は、個人体験というもので、キャンプを2年間してきました。キャンプといっても、あえて道具や荷物などを少なくし、自然のものを多く使うサバイバルキャンプをしました。いろいろなことに成功もしたけれど、それ以上にたくさんの失敗をしました。火がつかなかったり、作った寝床が崩れてしまったりしました。けれど、その失敗がなければ、キャンプは成功しなかったと思います。これ以外にも、挑戦、失敗する環境が山村留学にはたくさんありました。ここに来て僕は、失敗を恐れず挑戦する勇気をもらいました。

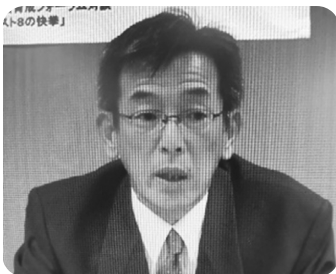
また、山村留学では11月ごろに収穫祭があります。そこでは、個人体験発表や全体発表の太鼓など、今までの成果を発表します。親や先生、地域の方などに感謝を伝えます。太鼓では倒れそうになるくらい全力で叩き、叩ききったときの達成感、仲間と協力してやったことを出し切った時の喜びを得ました。

このように、山村留学でしか得られない経験というもの、山ほどありました。山村留学に来て将来成功したという人がいます。その人は、きっとここでたくさんの経験をしてきたのだと思います。僕は、どんなに勉強ができることよりも、たくさん経験することが自分にとって大切だと学びました。僕は、これからもこの山村留学で「意味、価値、感謝」という言葉を頭におき、たくさん挑戦し、たくさん失敗し、いろいろな経験をしていきたいです。

今年度はタイトルにありますように、チーム関係者においていただき、大町白馬リトルリーグの沿革、信越、全国大会の道のり、日頃のご苦労話し、今後の決意、「ボクの宝物」の題での放送コンクール優秀作品となった太田君の作文発表など、30分の放映作品を各会場に届けました。

以下、放映内容をご報告いたします。

海川 大町白馬リーグの沿革にもありますが、2015年両リーグが統合し、大町白馬リーグが誕生した経過についてお聞かせ下さい。



竹田 経過についてのお話をする前に、簡単にリトルリーグについて説明させて下さい。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、リトルリーグは、アメリカで誕生した少年少女を対象とした「硬式野球」の国際的リーグです。8月にはアメリカで世界選手権が開催され、地域の単独チームで世界大会に挑戦することができます。世界では、80カ国以上で12歳までの子どもたちが活動しています。(この年齢はアメリカ基準なので日本では一部13歳を含み、中学1年生の8月頃までの活動となります)

日本では、北海道から九州まで12の連盟があり、700以上のチームが所属しています。私たちは信越連盟に所属しています。信越連盟は、新潟ブロック(6リーグ)・東北信ブロック(6リーグ)・中南信ブロック(10リーグ)からなっています。

リトルリーグには、選手の健康を守るために、投手の投球制限等のルールその他、特定のチームに選手が偏らないようにするために「バンダリー」という居住地による入団地域の制限があります。これは、基本的に同じ学校、地域の子どもの集りでチームを作ろうという基本理念から来るものです。

本題の大町白馬リーグの沿革についてですが、先ほどご紹介にあったとおり、現在は、大町白馬リーグとして活動していますが、以前はそれぞれ別々のリーグとして活動していました。それぞれのリーグ発足は1973年(S48)に大町リーグ、1976年(S51)に白馬リーグと、共に40年以上の歴史があるリーグです。過去には大町では選手数が多く、2つのチームを編成して活動していた時期もありました。1981年(S56)には、大町・白馬の両チームで信越連盟大会の決勝を戦った実績もあったそうです。

しかし、時代の流れの中で、2000年を過ぎると、野球人気にも陰りがみえはじめ、2004年(H16)に、大町リーグが全日本選手権には出場したものの、両リーグとも選手数が徐々に減少していきました。

リトルリーグでは、年齢毎の大会があるのですが、選手数の減少によって、5年生以下の大会において、それぞれのリーグが単独でチームを組めなくなってしまいました。選手数不足による大会不参加の経験もあり、2014年(H26)信越マイナー大会に初めて白馬リーグ・大町リーグの連合チームを組んで参加しました。

その後、各リーグで選手の募集・勧誘を進めました。それぞれのリーグを存続させながら、大会等は連合チームで参加するという選択肢もあったのですが、選手数増加の見込みが薄いこと、白馬リーグでの練習グラウンドの確保が難しいこと、指導者の安定的な確保等の理由で、2015年12月に両リーグが統合し、新リーグ・大町白馬リーグとなりました。そして、翌2016年(H28)の春季大会に大町白馬リーグとして初めて大会に参加し、今年でリーグ統合6年が経過しました。

【大町白馬リトルリーグの沿革】

- 1973年 大町リトルリーグ設立
- 1976年 白馬リトルリーグ設立
- 1978年 全日本リトルリーグ野球選手権信越連盟決勝大会
準優勝 大町リトルリーグ
- 1981年 全国選抜リトルリーグ野球信越連盟夏季大会
優勝 大町リトルリーグ（全国選抜大会出場）
準優勝 白馬リトルリーグ
- 1984年 全日本リトルリーグ野球選手権信越連盟決勝大会
準優勝 大町リトルリーグ
全国選抜リトルリーグ野球信越連盟夏季大会
準優勝 大町リトルリーグ（全国選抜大会出場）
- 2004年 全日本リトルリーグ野球選手権信越連盟決勝大会
優勝 大町リトルリーグ（全日本選手権大会出場）
- 2007年 全国選抜リトルリーグ野球信越連盟夏季大会
準優勝 大町リトルリーグ
- 2015年 両リーグが統合し、大町白馬リトルリーグが誕生
- 2019年 MLB CUPリトルリーグ信越連盟大会 第3位
- 2021年 全日本リトルリーグ野球選手権信越連盟決勝大会
準優勝 大町白馬リトルリーグ
※両リーグが統合されてからの全国大会出場は初めて

海川 次の質問ですが、練習会場確保はどこで行っていますか？また、広域であるため選手及び保護者の皆さんも大変だと思いますが、どのような関係を作っているのでしょうか？ご苦労話をお聞かせ願います。

竹田 まず練習場についてですが、基本的に、大町市社公民館隣のB & G海洋センター多目的広場をお借りして、活動しています。また、雨天時や冬期に関しては、主に大町市内の屋内体育施設をお借りしています。活動場所を固定させていただいているので、活動計画・用具管理等スムーズに活動できています。ただ、野球は屋外競技ですので、雨天時ならびに冬期の活動場所の確保には苦労しますが、保護者役員の方にお骨折りいただき活動場所を確保しています。



広域での選手及び保護者の皆さんとの関係ですが、現在、選手は大町市、白馬村の他に池田町のお子さんが所属しています。先日の体験会には松川村のお子さんも参加してくれました。広域での活動といえば確かに広域になりますね。しかし、これは地域柄やむを得ない事ではないかなあと考えています。冒頭にお話した、リトルリーグの「バンダリー」（所属の地域制限）に関していえば、大町白馬リーグの「バンダリー」はまさに大北全域プラスαです。これまでには小谷村、美麻・八坂、生坂村からも参加しているお子さんがいらっしゃいました。そんな中で、選手・保護者との関係についてですが、選手・子ども達は違う学校の子とも野球の仲間として同じ目標を持ち、楽しくやっているといます。休憩時間では、お互いの学校の話で結構盛り上がっています。（「少しは野球の話をしなさい。」って言うんですけどもね）

保護者の皆さんは、お子さんのために全力でサポートしていらっしゃいます。お住いの地域や家族・お子様の兄弟の状況によりお互いにフォローしあっていらっしゃる場所もあります。

基本的には、練習や試合の送迎。時には早朝の集合になるときもあります。コロナ禍においては、乗り合いやバスの使用ができないので、それぞれの家庭で大会等に送迎をお願いしないといけませんでした。

その他、グラウンドの環境整備や試合でのお手伝い。そして、私たちには見えないところですが、お弁当づくりやら洗濯等多岐にわたりお子さんに深く関わっていらっしゃると思います。

基本、グラウンドに送って行けば、後は練習終了後迎えに行けば良いのですが、中には選手たちと一緒にグラウンドで1日汗をかいて行かれるお父さんや、私たち指導者よりも大きな声でハッパをかけているお母さんもいらっしゃいます。「お疲れ様です」と声をかけると「普段の練習を見ていると、子どもの成長がよ〜くわかりますから」とおっしゃる方もいらっしゃいます。

ご家庭の食卓でも野球についての会話ができる良さもあるようです。プレーに関することだったり、チームメイトのことだったり。時々監督の悪口もあるみたいです。

それと、私たちが活動を続けていく上で、指導者、保護者の合い言葉は、『子どものため』です。グラウンドでは、必要以上に手出しすること無く、子どもたちに任せるべき所、子どもがやらなければいけない事は、多少時間がかかっても見守るようにしています。

そして、何より保護者の皆さんには、「自分のお子さんだけでなく、チームの選手は我が子。みんなで成長していきましょう。」という雰囲気を感じられます。私が、リトルリーグに関わって15年になりますが、かわらぬ保護者の皆さんの姿ですね。

今まで、申し上げてきましたとおり、広域での活動の中、選手・保護者の皆さんとは良好な関係が築けていると思うのですが、本来、リトルリーグの基本理念にある、同じ学校の仲間ですと一つのチームが組めるのが理想だとは思っています。（現に大北地域の中でもそんな活動をしている少年野球の団体があると伺っております。）ですが、児童数の減少、スポーツの多様化、スクリーンタイムの増加、子どもの運動離れ（二極化）が進む中で、各地域でチームを編成すること。さらには、集団スポーツである「野球」を存続させていく難しさを日々痛感しているところです。

中南信ブロック予選9リーグ参加 総当たりリーグ戦 6勝0敗2分 ブロック2位
年齢制限により、中南信ブロック第1代表 合併以来5年ぶりの信越連盟大会出場

2021年度第50回信越連盟春季大会
JA共済杯第55回全日本リトルリーグ野球選手権信越連盟決勝大会
兼第40回NBS長野放送旗争奪戦

主 管：中南信ブロック
東北信B：3リーグ
中南信B：5リーグ
新潟B：1リーグ

5/16(日),23(日) 予備日30(日)
A会場：松本市野球場
B会場：高家スポーツ広場 奥側
C会場：高家スポーツ広場 入口側
D会場：松本市野球場

上田南

6 1

D3 14:00

11 0 2 4

D1 10:00 D2 12:00

上田南 豊科 上田 大町白馬

第2日目

決勝トーナメントは各ブロック1位の3リーグと2位3リーグの上位1リーグで抽選により決定する

Aブロック(試合開始10:00)					Bブロック(試合開始10:00)					Cブロック(試合開始10:00)					ワイルドカード						
種	チーム	1	2	3	順位	種	チーム	1	2	3	順位	種	チーム	1	2	3	順位	各ブロックの2位の中から選出			
1	大町白馬 (中1)		○	○	1	1	上田南 (中1)		○	○	1	1	新 潟 (中1)		●	●	3	豊科 1次：勝率 2次：失点率 3次：直接対決勝者 4次：得点率			
2	須坂小布施 (中2)	●		○	2	2	豊科 (中3)	●		○	2	2	松本南 (中2)	○		●	2				
3	波 田 (中5)	●	●		3	3	松本北 (中4)	●	●		3	3	上 田 (中3)	○	○		1				

大町白馬 11- 1 須坂小布施 上田南 3- 0 豊科 上田 7- 6 松本南 失点率
 須坂小布施 8- 6 波 田 豊科 3- 2 松本北 松本南 11- 1 新 潟 1. 豊科 0. 4 5 5
 大町白馬 10 X- 9 波 田 上田南 7- 0 松本北 上田 18- 0 新 潟 2. 松本南 0. 8 0 0
 3. 須坂小布施 1. 8 8 9

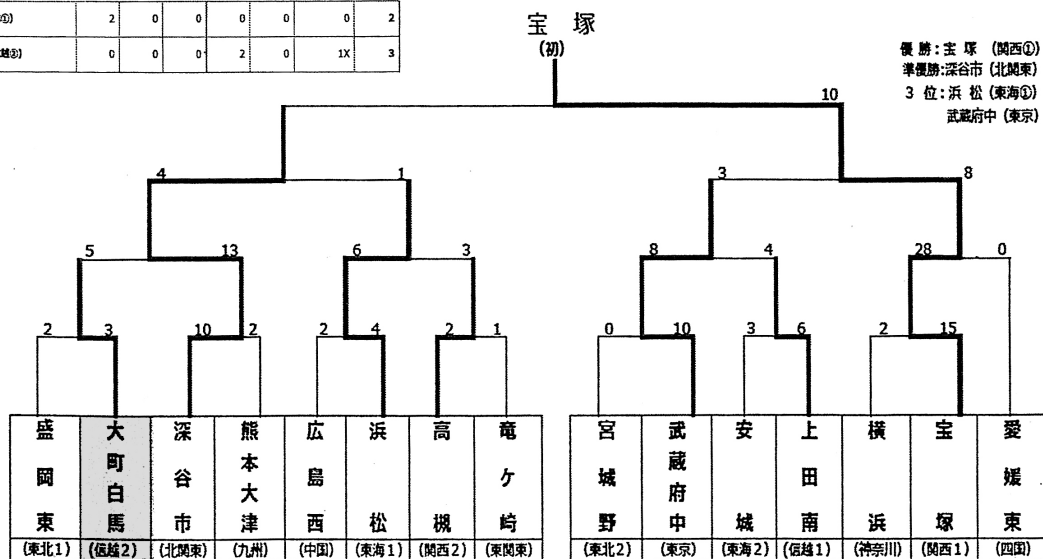
	1	2	3	4	5	6	7	合計
須坂小布施	1	0	0	0				1
大町白馬	2	6	0	3 X	4回コールド			11

	1	2	3	4	5	6	7	合計
波田	0	5	1	0	3	0		9
大町白馬	1	0	0	2	1	6 X		10

今年度、信越連盟出場枠2リーグ 第2代表
大町リーグ出場以来17年ぶり2回目

文部科学大臣杯 JA共済トーナメント第55回全日本リトルリーグ野球選手権大会 結果

深谷市	0	0	7	3	1	2	13
大町白馬	1	4	0	0	0	0	5
盛岡東 (東北2)	2	0	0	0	0	0	2
大町白馬 (信越2)	0	0	0	2	0	1 X	3



※1は第1代表、2は第2代表

東北連盟第1代表 盛岡東リーグを破り 全国ベスト8

海川 ただ今、監督さんから説明をいただきましたが、選手の皆さんに感想をお聞きます。

宮田 信越連盟春季大会では、上位2チームが全日本へ進めます。大町白馬は須坂小布施リーグと波田リーグを破り、決勝トーナメントに進出しました。決勝トーナメントでは、上田リーグと対戦。勝てば全日本に行ける大事な試合でした。1、2回に1点ずつ取られ、2回の裏ワンアウト2塁で、僕に打順が回ってきました。僕は「絶対に1点取り返すゾ！」という気持ちで打席に立ちました。狙った球が来たので思い切りバットを振りました。レフトオーバーの2ベースを打ち、1点返すことができました。その後、リーグみんなで0点に抑え、2対1の5回裏、みんなで「逆転するぞ！」と気持ちを1つにしました。中学生たちの活躍で3点取り、逆転し、6回の表を0点に抑え、勝利して全日本のキップを手に入れました。



決勝の上田南リーグとは6対1で敗れましたが、春季ブロック予選から全日本まで数々のプレーがある中で、2ベースを打った時の嬉しさが思い出です。

海川 今後の決意をお聞かせ下さい。

宮田 リーグ目標ですが、みんなが声を出し、元気で楽しいリーグにしていきたい。また、来年は僕たち6年生6名が中学生になるので、今年の中学生たちのように活躍し、どんな大会でも優勝を目指して、リーグ一丸となって頑張りたいです。

竹田 決意とかそんな大それた事ではないのですが、日々心掛けていることとしては、大町白馬リーグは「勝つためにやっているのではない」という事です。しかし、子どもたちには“勝ち”を意識させています。矛盾しているように思われるかもしれませんが、折りにふれて、子どもたちに話をする事なんですが、

- ★勝った時、仲間と喜びを分かちあうために、日々努力しよう。
 - ★ゲームセットで、リセットの効かない真剣勝負を楽しもう。
 - ★失敗は当たり前、恐れずに今できる全力を出しきろう。みんなですべてをカバーしよう。
 - ★ぼくたちは下手くそなんだ！だから練習しよう。謙虚に！全力で！！
- そんなことをモットーにしています。これはこれからも変わりません。

そして、何より、私たちリーグの指導者は、学校が休みの日にしか子どもたちに会えません。しかも、野球というツールでしか繋がっていません。まして、教育者でもありません。そんな中でも、野球という集団スポーツを通じて少しでも子どもたちの成長のお手伝いができれば良いと思って、日々子どもたちに接しています。

与えられたことだけをやる指示待ちの人間ではなく、自分で考え、仲間と一緒に、課題を解決するとか、目標を達成するといった強い気持ちを身につけて欲しいと思っています。こうした思いを忘れることなく、日々の活動を続けていく中で、子どもたち選手、保護者、そして指導者が一体となって同じ方向を向いていく。そうすることで結果が生まれると思います。その結果は時代・世代で違って良いと思っています。そして、それは、勝った負けただけではないと思っています。

ですので、今年は昨年叶わなかった信越大会優勝を目指します。最後になりますが、常に、強く思っている事なんですけど、現在、大町白馬リーグは小学校1年生から6年生、19名で活動しています。リトルリーグは学年、年齢毎の大会があります。それぞれのカテゴリーの大会に単独チームで参加できるよう仲間を増やしていきたいと思っています。

また、大北地区の少年野球の灯を消さないよう、コロナ感染症拡大前に行われていた「大北キッズベースボールまつり」を、開



催していた大北ベースボールサミット実行委員会のメンバーである大北地区の小学校・中学校そして高校の野球指導者の皆さんとも交流を続け、わずかばかりでも、野球を通じて、地域に貢献できれば良いと思っています。

海川 夢と希望、そして熱い想いをありがとうございました。それでは最後に放送コンクールで発表した太田迅人君の「今、大切にしていること」を朗読してもらいフィナーレとしたいと思います。それでは太田君、お願いします。

「今、大切にしていること」

大町西小学校6年 太田 迅人



ぼくが今、大切にしていることは、野球で使うグローブです。ぼくは保育園の時から野球をやっています。大切にしているグローブを買ったのは、3年生の時です。だから3年間もグローブを持っていたということになります。大切にしているグローブは練習の時も試合の時もグローブをよごしてしまっていました。すごく速い打球がきた時や、難しいバウンドがきた時などに、ぼくはグローブに毎回助けてもらっています。

だから、ぼくがグローブにできることは、いいプレーをしてもらったお返しにグローブをきれいにしたり型を良くしたりして、グローブにいいプレーをしてもらうことです。グローブは汚れてしまうことがありますが、すごく役に立つ大切なグローブだと思っています。

海川 3人の皆さんに感謝とお礼を申し上げます。写真、動画等は編集段階で挿入しながら放映したいと思います。それでは終了とします。ご苦労様でした。



市町村事業報告

大町市

各地区の活動紹介 ～長引くコロナ禍の中、子ども達のために工夫して、いくつかのイベントを実施しました～

大町地区	平地区	常盤地区
<p>さかなつかみ大会</p> 	<p>たいら子ども体験隊</p> 	<p>常盤少年駅伝競走大会</p> 
<p>夏休みの恒例行事「さかなつかみ大会」を市内越荒沢堰親水公園で開催し、大町地区の親子約200名にご参加いただきました。</p> <p>公園内の川に北安中部漁業協同組合で養殖したニジマスやイワナ800匹を放流。新型コロナ対策として、学年ごと時間差をとって魚つかみを実施。魚を捕まえた子どもからは「たくさん捕まえられたので良かった。魚は夕飯に焼いて食べたい!」と大喜び。</p> <p>大町市の水の豊かさや、きれいな水で育った淡水魚のおいしさを感じていただけたと思います。</p>	<p>毎年夏休みの時期に「たいら子ども体験隊」という行事を行っています。今年の内容は、子どもたちにアンケートを取った結果、ここ数年行っているカヌー体験をしたいという意見が一番多く、今年についても平地区の木崎湖でのカヌー体験と感染症対策をしながらバーベキュー体験を行うこととしました。</p> <p>カヌー体験では講師の話真剣に聞き、実践していくたくましい子どもたちがいました。また、疲れた後にお肉をいっぱい食べる子どもたちを見て今年も満足そうで良い行事だなと感じました。これからもこのような素晴らしい行事を継続していきたいです。</p>	<p>今年もコロナ禍の中、保護者や地域の方々の協力をいただき、11月3日に常盤少年駅伝競走大会を無事開催することができました。この大会は、常盤地区子ども会育成会ごとにチームをつくり、常盤地区内を小学生がタスキをつないで走るものです。</p> <p>今年の大会は、最終区2位でタスキを受けたチームが逆転で優勝するといった、白熱したレースとなりました。過去には少子化などにより開催が危ぶまれた年もありますが、昭和58年に始まったこの大会も、来年は節目の40回を迎えます。</p>
社地区	八坂地区	美麻地区
<p>魚つかみ大会</p> 	<p>郷土ふれあい体験学習</p> 	<p>シャワーウォーキング</p> 
<p>社地区魚つかみ大会は、高瀬川河川敷にてコロナ禍の中、健康チェックシートの提出、検温、消毒、名簿の作成など、感染症対策を徹底して開催しました。126人も参加があり、小学3年生以下と4年生以上で、交代しながら魚つかみを行いました。開始の合図と同時に、魚つかみに向かう子どもたちの表情は、コロナ禍の自粛生活を一瞬でも忘れさせてくれる、最高の笑顔でした。</p>	<p>八坂に伝わる郷土文化を学び、地域のお年寄りとの交流を図ることを目的とした「郷土ふれあい体験学習」を10月2日に開催しました。体験は引き続きコロナ禍から会場を分散し、「竹細工」、「灰焼きおやき」、「そば打ち、そば薄焼きづくり」、「わら細工」の4つのブースに分かれ、コロナ対策を徹底する中で行いました。</p> <p>小学生や保護者、地域の皆さんが総勢140名程参加し、子どもたちの笑顔あふれる楽しい体験学習になりました。</p>	<p>8月6日、白馬村の平川でシャワーウォーキングを体験。シャワーウォーキングとは、自然を舞台に沢下りを楽しみながら、コースを攻略するアクティビティです。この日は、小中学生と保護者等30人が参加し、猛暑の中、涼しげなひと時を過ごしました。参加者は、ウェットスーツに着替え、ガイドと共に出発。自然がつくった変化に富んだ川を横断したり、滝に打たれたり、ラッコのように浮きながら川に流されたりとしばらくの間、猛暑を忘れてヒンヤリとした雪解け水と戯れました。</p>

池田町

池田町では、各地区の各単位子ども会育成会がそれぞれの活動を実施し、各地区の会の運営は、自治会組織の育成部、地区PTAが主に担っています。昨年より新型コロナウイルス感染拡大のため活動に大変苦慮していますが、子どもの減少のため子ども会・育成会の活動を休止する地区も出てきました。各子ども会・育成会の役員は頭を悩ます日々が続いています。

「ふるチャレ畑」で野菜づくり

昨年に引き続き池田町のふるさとチャレンジ塾「ふるチャレ」から、フォーラムで発表させていただいた「ふるチャレ畑」についてご紹介します。「ふるチャレ」は、地区・年齢の違う子ども達の交流、遊びや体験・スポーツ・文化・レクリエーション・社会活動などの集団活動、安全教育、いろいろな知識・能力・社会生活上のルールを学びながら成長していくために役割を果たしています。また、参加した子どもたちは各単位子ども会・育成会でその経験を活かしています。

令和3年度の「ふるチャレ」の目玉は、ふるチャレ専用の畑を作り、とうもろこしや里芋など9種類の野菜を育て、収穫し料理するところまでを体験する事でした。昨年度、一切の飲食を禁止していた厳しい事態から、令和3年度は事態が好転し、子どもたちの笑顔があふれることを期待した企画でした。簡単な内容は「春に種まき・苗植え。夏のキャンプで収穫、料理を体験。秋の収穫祭でも収穫、おいしく食べる」というものです。残念ながら実際は計画通りには進まず、8月は新型コロナ第5派の影響により夏のキャンプは中止となり、収穫だけを行い各家庭に持ち帰りとなりました。最後となる秋の収穫祭では、子どもたち全員で料理をし、笑顔いっぱいでおいしくいただきました。どんな時でも笑顔でおいしく食べることはいいものですね。



みんなで苗を植えました



ふるチャレ畑完成



おいしくいただきます

松川村

新型コロナウイルスの影響は令和3年度になっても引き続き猛威を振るい、昨年度に引き続き思うような事業実施ができませんでした。ワクチン接種が始まり日常を取り戻しつつありますが、一時は全県で警戒レベルが5に引き上げられるなど昨年以上に厳しい状況となりました。

松川村においても例外ではなく、あらゆるイベントの延期や中止が決まっていきました。例年であれば子どもたちの笑顔で溢れていた夏の「魚つかみ大会と河川美化活動」や毎年趣向を凝らした取り組みを実施していた「何でもチャレンジ」なども軒並み中止となってしまいました。

残念ながら村主催の事業も昨年度に引き続きほとんど行うことができず、全部で17地区ある子ども会育成会においても昨年度同様に各地区の判断で感染防止対策を取る中で実施の可否を判断していくこととなりました。

今後も、このような状況が続き長期化することを想定し、新しい生活様式に沿ったイベントを考えていかなくてはなりません。

今回のらいちょう60号の発行にあたりまして、村が今年実施したイベントの紹介をさせていただきます。

～ラフティング体験会～

昨年度は感染症防止対策を講じて親子MTB体験会を実施し好評をいただきました。今年度も長期化する新型コロナウイルス感染拡大の中、遠くへの外出は厳しい状況で身近な場所で何かできることはないかということで安曇野市の「あめんぼう」さんにご協力をいただき親子で参加できる、ラフティング体験会を実施しました。

安曇野市の万水川から入水し、最後は犀川までの約90分間の川下りを楽しみました。途中「大王わさび農場」北を流れている蓼川に立ち寄り、川に設置されている水車小屋を見たり、湧き水と水温の違いを実際に肌で感じたり、子どもたちが水鉄砲による打ち合いなど水遊びをしました。万水川、高瀬川、犀川の3川合流地点では、ボートを降りて魚を捕まえたり石で水切りしたりと、普段は入れないような場所で貴重な体験をしました。ライフジャケットを着用しているので川に落ちてしまった時の対処方法として、実際に川に落ちて流れに身を任せるなど、実技を交えて楽しく指導していただき楽しい時間を過ごすことができました。

本来であればバスなどを利用して参加者を連れて会場まで行くところですが、やはり3密を避けなければいけないため、感染防止対策として昨年同様、現地集合、現地解散とさせていただきました。

参加者の皆さんからも喜びの声を多くいただきました。



▲ いざ出発！



▲ 水に浮かんで気持ちいい♪



▲ とても楽しい体験でした！

まだまだ厳しい状況は続きそうです。1日も早くコロナが終息し、これまでの日常が戻り、また子どもたちの笑いが溢れるそんな事業を企画し、安心して参加してもらえる日が来ることを切望します。

白馬村

令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な事業の縮小や中止を迫られてしまいましたが、夏休みの行事とクリスマスパネルシアターは感染症対策を講じた上で実施することができました。

夏休みの行事は、小学校4～6年生15名が参加し、大町エネルギー博物館と高瀬溪谷のダムを訪れました。

大町エネルギー博物館では、館長が竹とんぼや飛行機の模型を使って飛ぶ力（揚力）について教えてくれたり、展示室で熱や水、光など様々な力の勉強をしたり、プラネタリウムで星や宇宙のことを学んだりしました。

その後、大町ダム、七倉ダム、高瀬ダムをそれぞれ見学し、ダムを管理している国土交通省や東京電力の職員の方からダムの様々な役割や構造などについてお話を伺いました。

参加した子どもたちは、それぞれの興味・関心を刺激する展示や説明に多くの学びを得たり、ダムの迫力を目の当たりにして、過去の災害やダムの役割・構造・建設方法などを聞いて驚いたり、充実した一日を過ごしました。

12月のクリスマスパネルシアターは、園児や小学校低学年の小さな子どもたちや保護者など約100名が参加し、こ～みんなま・ぱぱによる歌や手遊び、パネルシアターを楽しみ、サンタクロースからプレゼントをもらいました。

感染症が終息し、以前のように子どもたちが元気いっぱい楽しむ機会や体験を提供できるようになることを願っています。



大町エネルギー博物館



七倉ダム



こ～みんなま・ぱぱ クリスマスパネルシアター

小谷村

令和3年度当初は、新型コロナウイルス感染症の影響で予定していた事業がなかなか開催できず、とても寂しい思いをしておりましたが、そんな中でも夏休み期間に開催した「おたり村内巡りツアー」では、小谷村の特産品がどのように作られているか製造過程から見学をし、より地元に着愛を持って過ごすことの大切さを学ぶことができました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期となっていた小谷村青少年育成会40周年記念事業について、バドミントン日本代表選手の奥原希望選手をお招きし特別講演会を開催しました。「自分の人生の主役はあなた」というとても胸に刺さる内容で、小谷っ子の今後の人生において貴重なものとなったことと思います。

まだまだコロナ禍での活動が続きますが、子どもも大人も一丸となり、地域を明るく、毎日を楽しく過ごすための活動を探していきたいと思っています。



村内巡りツアー



奥原希望選手特別講演会

子ども会の皆さん

全国子ども会 安全共済会

に加入しましょう!

子ども会は、子どもたちに生きる力を育み、
体験を通して感動が生まれ、輝く夢を与える活動を行なっています。

子ども会の活動、取り組み内容

- ☆仲間遊び
- ☆エコ活動
- ☆緑化運動
- ☆スポーツ活動
- ☆慰問・訪問活動
- ☆食育活動
- ☆生活習慣向上運動
- ☆伝承芸能活動
- ☆募金活動

◆子ども会活動を安心して行うために、共済に加入することを忘れずに!

加入時費用には、共済掛金の他に賠償責任保険料が含まれています。活動中に会員本人が負ったケガや病気の他に、誤って第三者にケガを負わせてしまったり、物を壊したりしたときも補償を受けることができます。

定期的に、そして事業開始前から事業実施中にもKYT(危険予知トレーニング)を行い、事前の会場下見等による安全・安心を確保しましょう。

全国子ども会安全共済会に加入するには

- ・契約した市町村(地区)の子ども会連合組織に、単位子ども会ごとまとめて申し込んでください。
- ・単位子ども会、市町村(地区)子連、長野県子連に所属する者が次の加入時費用を納めることが必要です。

☆加入時費用(1人) … 150円(10月1日以降加入の場合…140円)

内訳 全国子ども会安全共済掛金…50円(10月1日以降加入の場合…40円) } 70円
全国子ども会連合会運営費…20円(子ども会賠償責任保険料を含む) } (10月1日以降加入の場合…60円)
長野県子ども会育成連合会運営費…80円
(各種事業、安全教育、共済金請求事務、事前審査、名簿管理等の費用として)

長野県加入者数の状況

○令和3年度 加入者数

区分	乳幼児	小学生	中学生	高校生	指導者・育成者	計
加入者数	6,261	62,283	19,513	682	32,125	120,864

<問い合わせ先>

一般社団法人 長野県子ども会育成連合会
TEL : 026-225-0126 FAX : 026-225-0133

大北地方子ども会育成連絡協議会規約

(名称)

第1条 この会は、大北地方子ども会育成連絡協議会という。

(目的)

第2条 この会は、大北地方の市町村子ども会育成会の連絡提携を図り、もって青少年育成活動の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 この会は、前条の目的達成のため、次の事業を行う。

- 1 市町村子ども会育成会の連絡提携に関すること。
- 2 地区育成会の活動促進に関すること。
- 3 青少年健全育成に関する家庭生活の充実、環境浄化等地域社会の意識の高揚を図ること。
- 4 子ども会活動に対する青少年指導団体の協力参加の促進を図ること。
- 5 その他、この会の目的達成のための必要な事業を行う。

(組織)

第4条 1 この会は、大北地方の市町村子ども会育成会及びこれに準ずる地区育成会（以下「市町村 子ども会育成会等」という）をもって構成する。
2 市町村子ども会育成会等は、その会長をこの会の委員として選出する。

(役員)

第5条 この会に次の役員をおく。

会長 1名 副会長 2名 監事 2名 顧問・参与 若干名

(役員の職務)

第6条 1 会長は、会を代表して会務を総括する。
2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
3 役員は、役員会を構成し、議案の審議決定、事業の企画立案及び事業の実施にあたる。
4 監事は、この会の会計及び業務の執行状況を監査しその結果を会議に報告する。
5 顧問・参与は、この会の運営について助言する。

(役員の選出)

第7条 1 会長・副会長は、委員の互選による。
2 監事は、役員総会において選任する。
3 顧問・参与は、会長が必要と認めたときは役員総会に諮って委嘱する。

(役員の任期)

第8条 役員の任期は2年とする。なお、欠員が生じたときは所属団体から補選し、その任期は前任者の残留期間とする。ただし、再選を妨げない。

(会議)

第9条 1 この会議は役員総会・役員会とし、会長が召集する。
2 役員総会は、市町村子ども会育成会等の会長、副会長及び事務局長で構成し、過半数の出席で成立するものとする。また、出席できない場合は会長に議決権を委任できるものとする。

(事務・事業の支援)

第10条 北アルプス地域振興局総務管理課は、この会の事務・事業の支援・補助を行う。

(経費)

第11条 この会に要する費用は、会費・補助金・寄付金及びその他の収入をもってあてる。

(会計)

第12条 この会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(附則)

- ① この規約は、昭和53年3月1日から施行する。
- ② この規約の一部改正は、昭和55年7月30日から施行する。
- ③ この規約の一部改正は、昭和57年6月13日から施行する。
- ④ この規約の一部改正は、昭和63年6月2日から施行する。
- ⑤ この規約の一部改正は、平成6年5月12日から施行する。
- ⑥ この規約の一部改正は、平成15年5月8日から施行する。
- ⑦ この規約の一部改正は、平成19年5月14日から施行する。
- ⑧ この規約の一部改正は、平成20年6月13日から施行する。
- ⑨ この規約の一部改正は、平成21年5月19日から施行する。
- ⑩ この規約の一部改正は、平成29年8月23日から施行する。

令和3年度 子ども会だより

らいちょう 60号

令和4年3月発行

編集・発行 大北地方子ども会育成連絡協議会
代表者 田中 春輝